

セルフメディケーションへの挑戦

仰々しいタイトルをつけましたが、先日友人達と登山をした帰りのもうすぐ下山口に到着するという山道で足がもつれて転倒し右顔面を軽打してしまいました。ヘルメットはしていましたが右眉毛と右眼の横に切り傷ができ出血。出血はタオルなどで押えると間もなく止まり深い傷では無いようでした。

土曜日の午後だったので同行した友人達には救急に行かねばと言われましたが、私はセルフメディケーション対象の傷ではないかと思い、帰宅後近くのドラッグストアで抗菌成分入り軟膏と抗菌成分入りの目薬を買い、自宅にあった消毒薬と組み合わせて、その外傷に対応してみました。**国が推進するセルフメディケーション**にどこまで患者さんが対応できるかへの挑戦になります。

1) 傷の部位

右の眉と右眼横に切り傷ができタラーと出血、転倒当時はタオルなどで押えていないと止血ができない状況でしたが、その内に止血。タオルや服の一部が血染めになってしまいました。その他にも顔にはすり傷、手や足にもすり傷ができ、とっさに手をついたせいか右手親指下の部分に打撲による痛みがありました。しばらくすると右眼下が皮下出血状に腫れてきました。転倒の際は眼鏡をしていたので眼鏡は無残に変形し眼鏡による顔面への圧迫も考えられました。右レンズも外れたので傷以外にも傷バンで応急的にレンズを枠に貼り付けて何とか歩ける状態をキープしたのでした。登山する際には最低限の救急対応のアイテムが必要だと改めて感じた次第です。



2) 利用した一般用医薬品

薬の専門家ではない友人達には私は薬のプロだからと強がってはみましたが、一般用医薬品では対応できる成分が限定されます。近所のドラッグストアへ行き選択したのが次の製品でした。

①ロート抗菌目薬EX (第2類医薬品)

成分: **スルファメトキサゾール**、クロルフェニラミン、グリチルリチン酸、トコフェロール

適応: ものもらい、結膜炎、目のかゆみ、眼瞼炎

用法: 1回2～3滴、1日5～6回点眼

☛ **3～4日**使用しても症状がよくならない場合は医師、薬剤師、登録販売者に相談。

- ・外傷で怖いのは感染症ですから、目への直接的な外傷はなかったですが眼周囲への感染予防として選択しました。
- ・スルファメトキサゾールはサルファ剤の抗菌成分ですが現在は耐性菌が多くなっていると言われており、果たしてどれだけ眼の感染症に有効なのかは不明でしたが、一般用医薬品での抗菌成分はサルファ剤しかないので一択でした。
- ・本来の適応症とは別の利用ですが抗菌成分はサルファ剤一択なので利用したわけです。

②フルコートf軟膏 (指定第2類医薬品)

成分: フルオシノロンアセトニド、**フラジオマイシン**

適応: 化膿を伴う次の諸症: 湿疹、皮膚炎、あせも、かぶれ、しもやけ、虫さされ、じんましん。化

膿性皮膚疾患(とびひ、めんちょう、毛のう炎)

用法：1日1～数回、適量を塗布

☛ 5～6日使用しても症状がよくなる場合は医師、薬剤師、登録販売者に相談。

- ・これも適応外ですが、右眼の横から下にかけて腫れが出ていたので副腎皮質ホルモン成分のフルオシノロンアセトニドによる抗炎症効果と傷からの感染症を考慮してアミノグリコシド系抗生物質フラジオマイシンが配合されたフルコート f 軟膏を右眉と右眼横と腫れた部分に塗布しました。
- ・一般用医薬品でのステロイド薬はストロングタイプまでしか販売されておらずベリーストロング以上は医療用医薬品のみとなります。本成分はストロングタイプなので一般用医薬品としては最大の効力をもつステロイド軟膏薬となります。またステロイド薬の顔からの吸収率は高いため少量、短期(上記の5～6日が目安でしょう)の塗布に限定されます。
- ・フラジオマイシンは急性毒性が強く外用薬のみしか利用されていません。なおアミノグリコシド系はグラム陰性から陽性の細菌のタンパク質合成を阻害し殺菌的に作用します。

③ケンエーシロチンS (第3類医薬品) 自宅にあった少し期限切れの薬…

成分：ベンゼトニウム、アラントイン、クロルフェニラミン

適応：切り傷、すり傷、さし傷、かき傷、靴づれ、創傷面の殺菌・消毒。痔疾時の肛門の殺菌・消毒。

用法：1日数回塗布。

☛ 5～6日使用しても症状がよくなる場合は医師、薬剤師、登録販売者に相談。

- ・ベンゼトニウムは陽イオン界面活性成分で一般細菌、真菌に殺菌消毒作用を示します。

3) セルフメディケーションへの挑戦

土曜日の午後の転倒受傷のため医療機関はやっておらず、また翌日曜日と同様です。富山県にある救急医療センターへ行くほどでもなく、ましてや救急車を呼ぶレベルでもない与自己判断すると上記の一般用医薬品を利用してやろうという意識が働きます。

まず①抗菌目薬で眼を洗うように数滴垂らして、眼の周りにまだ残っているゴミのようなものを綿棒やティッシュで軽く当てながら取り除きます。さらに綿棒に③消毒薬を含ませて眼の周りの傷口にそっと当てながら消毒します。頬の傷には③消毒薬をティッシュに含ませて塗布していきます。最後に②抗菌成分含有のステロイド軟膏を綿棒の先につけて眉毛の傷、右眼の横の傷、右眼下の腫れた部分に塗布します。

この過程を最初の約2日間に4～5回していましたが、特に眼の周囲の腫れや膿なども見られず、このまま4～5日程度続けると恐らく治るかと思っていました。ただ右眼の直ぐそばの傷だったので右眼内部に何らかの異常があるのではないかと心配になり、特に視界などに異常はなかったものの結局受傷2日目の月曜日に近所の眼科医を受診し検査をしてもらいました。結果は特に異常はなく眼の周囲の傷へ化膿止めとして**オフロキサシン**眼軟膏が処方されました。サルファ剤、フラジオマイシン、ベンゼトニウムよりは抗菌作用が強く、さらに悪化することはないだろうと個人的には安堵しました。

4セルフメディケーション利用の感想

- ・色々なケースのセルフメディケーション状況が考えられると思いますが、実際にその場に遭遇した場合に自分で判断できるか?の問題があります。自己判断では自分に都合よく判断しがちなので近所にドラッグストア等があれば、そこの薬剤師や登録販売者と相談しながら薬を購入する方が良いと思います。ただその相談相手が適格な指導をしてくれるかの技量問題が課題になるでしょう。
- ・私の場合はとりあえずの治療パターンを想定してドラッグストアで揃えられる薬を購入しましたが、レジ担当者は私が顔の傷を晒しているにも関わらずバーコードを読み込み会計するのみでした。「顔の傷大丈夫ですか?」という声かけがあっても良いだろうと思ったくらいでした。販売する側も積極的な姿勢が無い限りセルフメディケーション推進の実現は困難だと感じた事例でした。(終わり)